

1987-8
No. 227

【表紙】
二枚小地白浴衣・
紗綾地貝合わせ
清水幸太郎
1952年作
・解説は30ページ

題字デザイン・桑山弥三郎
カット・林美紀子

もくじ

特集：国民文化祭

随想 文化力	細川護熙	4
地域語・日本語・コトバ	渡辺 恭士	6
国民文化祭に期待して	森 義臣	6
いま、熱中してます、文化祭	安永 露子	6
国民文化祭に寄せて	山崎 崇伸	7
国民文化祭に期待する	本山 年光	8
国民文化祭を熊本に迎えて	野田 紫水	8
新人類の参加を	橋元 俊樹	8
一億人の絵画運動	白木 光虎	9
全国同人誌大会に寄せて	井芹 俊郎	9
自然と人間と芸術との対話	丸山久美子	10
❖事業説明	第2回国民文化祭準備室	10
❖第2回国民文化祭主催事業日程・会場等		13

ぶんか ブンカ		
命の洗濯	塚原 琢哉	14
中国の民俗芸能	星野 紘	15

都道府県のページ		
我が県の文化行政◎		
歴史と文化の里づくり推進事業	鳥取 県	16
特色ある文化活動◎		
洋舞連合と合同作品	宮城県洋舞団体連合	19
都道府県月間行事予定 8月		21

文化行政質問箱		
著作権5	図書館資料の複製は？	22
著作権6	学校教育放送の録画・複製は？	23

文化庁だより		
報告/全国高等学校総合文化祭と 全国高等学校文化連盟(全国高文連)		24
文化庁ニュース		
・昭和61年度民間芸術等振興費補助金の交付状況について		26
「伝建協」のシンボルマーク、決まる		28
展覧会紹介		
杉山 肇 展		28
タイ美術展/法華経の美		29

・文化庁行事報告及び予定	30
・国立劇場ニュース	31



でも、経済力だけがすべてではない。指導者の文化的なセンスなり、その国の「文化力」というものが大きな説得力を持つようになってきた。つまり「文化力」こそ本質的な政治力なのである。

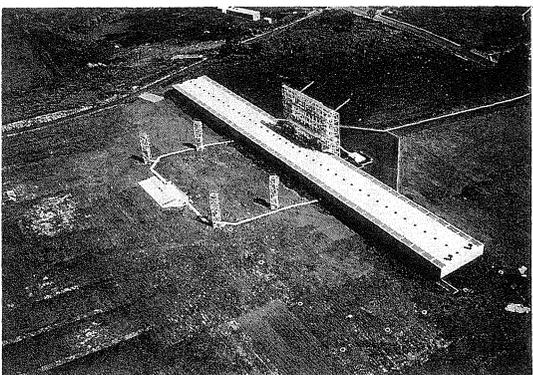
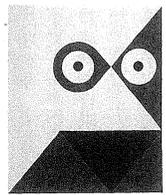
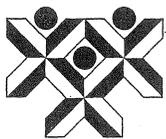
大体わが国においては、スポーツ振興法というものはあるが、文化振興法というものは存在しない。そういうものを作るのがいかどうかの議論はさておいて、地方自治法にわずかに「文化施設をつくるのは地方の仕事」とあるだけで、「文化会館を使って地元文化を活性化しろ」とは書いてない。だからせっかくハコモノが出来てもその使い方となるといささか首をかしげなくてはならない。

例えば日本の場合、芝居にしても音楽会にしても開演はほとんどが六時から七時。歌舞伎などは午前十一時と午後四時だから見に来ているのは、ほとんどが中年の御婦人で、残業が普通のサラリーマンはともに行けるはずがないし、夜の酒場だけが繁盛するというおかしなことになる。そこにいくと欧米は、早くても八時開演が常識である。そういうところにも日本では、文化など所詮子女の娯楽に過ぎないとみなされているという側面が端的にあらわれている。

たまたま今秋熊本では、一昨年の第一回地方芸術祭に続いて、地方では初めての国民文

化祭が開催される予定だが、地域を挙げてこうした催しに取り組むことによって地域の「文化力」が着実に高まっていくことを期待している。

ところで、今春パリに行った時、改めて感じたことだが、パリでは今、革命二百年記念を二年後に控えて、そのモニュメントともなる大胆な都市計画・再開発が進められている。バスターユ広場では新オペラ座の建設が進んでいるし、国鉄オルセー駅は改築されて美術館に変身した。そのほかラピレット公園の



グリーンピア南阿蘇・ASPECTA

なかの博物館やミュージックセンター、セーヌ河に突き出た新大蔵省の建設等々、そこには二十一世紀に向けて歴史の風雪に耐え得る文化創造の意気込みがひしひしと感じられる。それにくらべて、日本では、例えば現代舞臺の殿堂である第二国立劇場構想でさえ、昭和四十六年に調査費がついてから十数年も経つのに遅々として設立が進んでいない。また、一坪一億円もする土地が放置されたままの日本の国土計画、街づくりのなんと場あたりでお粗末なことか。なら歴史の展望も持たず、また実現性さえ定かでない四全絵なる「計画」をはじめとして、そこにあるのはまさにウサギ小屋からの発想でしかない。

思いつくままに並べてみてもグチ以外でこないのが残念だが、最後に残るものは結局文化しかないのだという認識を多くの人が持つようになるには、まだまだ時間が必要だということなのだろうか。



随想

文化力



熊本県知事 細川護熙

ジョン・F・ケネディは、ホワイトハウスにパブロ・カザルスをはじめ著名な音楽家を招いてしばしば音楽会を開いた。カーター前大統領も大ピアノリスト、ホロヴィッツをホワイトハウスに招いてリサイタルを開いた。その時の模様をいつかテレビで見たが、ホロヴィッツといえば世界最高の巨匠。幻のピアノリストとしていまやステージに立つこともほとんどないが、百人ばかりの招待客の待つサロンにホロヴィッツを伴って現われたカーターの短い挨拶がまた素晴らしかった。なんの気取りもなく的確にホロヴィッツの芸術を讃える言葉は、およそどこかの国の政治家の挨拶とかけ離れたスマートなものだった。

高齢のホロヴィッツがまず弾いたのは、なんとアメリカ国歌「星条旗」だった。全員が立ち上がってこの巨匠のメロディーに聴き入る姿は全く自然で何とも羨ましくなるような光景であった。我が国でこうしたことがあつたとしても、招待されたピアノリストがまず「君が代」を奏するであろうか。カーターのような気の利いたスピーチも出来ないし、だいたい総理大臣官邸でこの種の文化的な催しをもたれることも欧米に比べればはるかに少ない。

欧米における文化がいかに人々の血となり肉となつているか、改めて感じた次第だが、そういえばスピーチにとどまらず政治家の文化的な資質もだいぶ欧米とは差があるように思う。

チャーチルの絵は有名だが、第一次世界大戦後ポーランドの初代大統領を務めたパレフスキーはシヨパンの大家として二十世紀前半の楽界で輝けるピアノリストとしての声価を得た。近くはあのモガジシオへの電撃的な人質救出作戦で強い意志と決断の塊のようなドイツ人魂をみせた西ドイツのシュミット前首相も、彼の六十三歳の誕生日に、エストウズ・フランツ、エッセンバツハという世界的なピアノリストとともにモーツアルトの「三台のピアノのための協奏曲」を弾いて、新進ピアノリストとしてデビューした。

昨秋来日したヒース英元首相は、ドボルザークの「新世界」を指揮して喝采をあびた。「ゴルフ」と「からおけ」しか出来ない日本の政治家とは月とスッポンといわざるを得ない。

要は、政治力とか経済力とか、そうしたものは確かによくなつてきたに違いはないが、わが国の「文化力」のレベルは、国際比較においては第三級でしかないということなのである。しかし、これからは国際会議ひとつにし

編 集 後 記

暑中お見舞い申し上げます。
来年度予算の概算要求作業の真つ最
中で、予算増と新規予算の獲得を目指
して、担当者は、より熱くなり、汗を
流しています。

いよいよ今秋十月二日から、熊本県
で、地方で初めての国民文化祭の主催
事業が開幕しますが、関係者の方々は、
夏休み返上の心意気で準備に頑張っ
ていらつしやるのではないでしょう
か。
今号では、熊本で各行事のまとめ役
として御尽力くださっている方々に、
国民文化祭への熱い思いを語って
いただき、また、より多くの皆様方に
ご紹介いただけるよう事業概要を
紹介いたしております。ご参考にな
れば幸いです。
楽しい夏休みを過ごされますよう！
(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 きょうせい 営業課
TEL(03)2681-2411(代表)

「文化庁月報」八月号

(通巻第三二七号)

昭和62年8月25日印刷・発行

編集 文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社 きょうせい

〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所 〒105 東京都港区西五軒町52番地

電話(03)2681-2411(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 発行政学会印刷所

定 価 一八〇円(送料四五円)
年間購読料 二、一六〇円(送料共)